

V 校内研修計画

1 研究主題・副主題

相手意識のある学び合い

～自分の思いや考えを伝え合い深める子をめざして～

2 主題・副主題設定の理由

本校では、学校教育目標「社会とのつながりの中で学力そして豊かな心とからだを育てる」を受けて研究を進めている。相手意識のある学び合いを重視し、友達や学校全体、さらに地域や社会に向けて、自分なりの思いや考えを伝え合い深める子の育成をめざし、研究主題を「相手意識のある学び合い」、副主題を「自分の思いや考えを伝え合い深める子をめざして」とし、授業実践を積み重ねてきた。

昨年度は、石川県教育委員会から「いしかわ道徳教育推進事業」道徳教育推進校の指定を受け、道徳科を中心に研究を進めた。事前アンケート結果の提示など導入を工夫することで、道徳的価値についての問題意識が高まり、自分から学びに向かう児童が増えた。また、「心のものさし」で表した考えを、ＩＣＴを活用し共有することで、友達の考えを聞きたいと思う児童が増え、伝え合いが活発になった。その結果、多様な考えに触れ、新たな気づきを得ることが児童の学ぶ楽しさにつながったと考えられる。アンケート結果からも、「道徳の時間が好きだ」と回答した児童の割合が増加した。

その反面、道徳科の授業の流れの中で、児童の思考をより深めることができるような問い合わせや切り返しに課題があった。児童の話し合いの中で、どの発言を取り上げるか、事前に考えた補助発問からどんな発問をするかに難しさがあった。また、授業構想シートを活用することで、教材を読んで話し合い場面での発問を、ねらいをもって組み立てることは学校としてできるようになった。しかし、教材から離れ、自分を見つめるための手立てが足りず、教材を通しての考えたことが途切れてしまう場合もあり、児童が自分の生き方について考えを深めることができていない現状もあった。年度末に行った学校戦略会議のＳＷＯＴ分析の結果としても、児童の主体的な学びや聞き合い深める部分が本校の児童の課題として挙げられていた。

これらの成果と課題を受けて昨年度の研究を引き継ぎつつ、今年度も道徳科を中心に据えて研究に取り組む。昨年度の「重点1 考えをもつための手立て」については、成果が見られたので、今年度は「重点2 伝え合い深めるための手立て」に絞り実践していく。学び方を工夫し主体的に取り組み、相手の考えを聞き、自分の考えに生かして学びを深める子を目指して研究を進める。また、道徳科の研究を通しての学びを他教科の実践に広げていく。

3 今年度の研究の重点

【重点】伝え合い深めるための手立て

ねらいに迫るための発問の工夫

子供のゴールの姿を具体的に想定した上で、その時間のねらいを達成するために必要な発問や問いかけ、思考を深める問い合わせをしていく。道徳科においては、ねらいにせまるための中心発問や深めの発問をよく吟味し、発問を精選することを大切にする。また子供がどのように答えるかを具体的に想定し、その場合の問い合わせや切り返しの発問を事前に検討する。

子供主体の学習や交流の工夫

子供がめあてをもち学習方法を選択したり、交流の相手を自己決定したりすることで、子供主体の授業づくりを目指す。道徳科においても、子供が「聞いてみたい」という相手と伝え合う場を設定することで、多様な考え方や価値観に触れ、自己の生き方についての考えを深めていけるようとする。児童同士の交流だけでなく、ゲストティチャーとの対話を通しても、児童の考えを深められるようにする。

まとめ、ふり返りの充実

まとめやふり返りの充実に向けて、タイムマネジメントが重要になる。時間をしっかりと確保し、子供が自分でその時間の学びをまとめたり、ふり返ったりできるようにする。道徳科では、ふり返りの視点を校内で共有し、その視点をもとに子供が自分自身について考えることで、自己を見つめる時間を大切にしていきたい。

4. 研究の基本方針及び研究組織

- ・みかわ授業スタイルの共通理解を図り、学習方法や指導方法を明確にした授業を行う。
- ・研究授業は全員が行い、全体研究授業かブロック研究授業のいずれかを行う。全体研究授業では指導主事等を招いて助言を仰ぐ。
- ・教科は道徳科を基本とする。級外や特別支援学級では、自分の選んだ教科で行う。
- ・全体研究会の他に、低学年ブロック（1～3年）・高学年ブロック（4～6年）で研究を進める。特別支援学級は所属する学年のブロックに入る。
- ・全体研究授業は、全体で指導案検討会・授業整理会を行い、会の準備・進行等は学習部で行う。ブロック研究授業は、ブロックごとに事前研・授業整理会を行い、会の準備・進行等はブロックで行う。
- ・全体・ブロック研究授業は、5限もしくは6限に行うことを基本とする。
- ・授業整理会は、授業者の教室で行い、板書は活用できるよう残しておく。
- ・授業後、「授業研だより」に研究の重点と成果をまとめ、配布することで、共通実践を共有し、その後の実践につなげる。

ブロック

- ・低学年ブロック：澤地 永井 藤 坂本（山本）（谷内）
- ・高学年ブロック：竹村 林 川西 留田 中田（藤永）
- ・特支ブロック：山本 谷内 藤永

5. 今年度の研究計画

月	研究内容	授業力向上
4	研究概要説明道徳校内研修会（要請訪問） ・研究内容の共通理解 ・研究授業の計画 ・授業スタイル「みかわ」についての共通理解 低高ブロック会①（研究授業の計画）	横断的カリキュラムの作成 子供の実態把握 学級経営案作成 授業スタイル「みかわ」についての共通理解 見合いつこ週間
5	全体研提案授業（6年・留田）講師招聘 ・指導案の形式の確認	レベルアップ週間①
6	全体研（5年・川西） ブロック研授業（3年・坂本） 道徳公開	研究授業（学校訪問 全員）
7	全体研（4年・竹村） ブロック研授業（1年・澤地）（2年・永井） 低高ブロック会②（1学期の実践の考察） 全体研（教材分析・授業構想）講師招聘	1学期のふり返りと取組の見直し
8	全体研 講師招聘 研究発表会指導案検討 全体研究会 2学期の授業づくりの指針の明確化	教材研究 学力テストからの考察
9	ブロック研（3年・藤）（4年・林）（6年・中田）（ひまわり2・谷内）	
10	研究発表会 ブロック研授業（ひまわり3・藤永）	レベルアップ週間②
11		
12	ブロック研授業（ひまわり1・山本） 低高ブロック会③（2学期の実践の考察）	2学期の振り返りと取り組みの見直し
1	研究紀要の作成 ・年間のまとめと研究紀要の作成 ・3学期の授業づくりの指針の明確化	レベルアップ週間③
2	全体研究会③（研究総括） ・成果と課題の共有	
3	全体研究会④（次年度の研究）	

級外・特支は、2学期にブロック研を行う。

特支担任は、参観が難しい場合は、事前研と整理会に参加する。

みかわ授業スタイル（各教科等）

学習過程		時間	教師のかかわり(手立て)	めざす子供の姿
構え	授業の準備 チャムスタート	0	<p>□ゴールやねらいの明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なゴールの姿を想定する ・ねらいを明確にする
みつけよう	課題をつかむ	5	<p>□導入の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物、動画、写真、資料問い合わせなどで問題意識を高めたり、見通しをもたせたりする
かんがえよう	自分の考え方をもち、伝え合い深める	30	<p>□多様な考え方を引き出す工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末、思考ツールの活用 ・根拠（叙述・絵・図や表・式・数直線）や既習をもとに考えさせる
たしかめよう	適用するまとめるふり返り	10	<p>【重点】 伝え合い深めるための手立て</p> <p>□発問の工夫</p> <p>□子供主体の学習方法や交流の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・深めの発問や問い合わせし、根拠を明らかにしたり、比較・分類をさせたりする ・交流の相手や方法の選択 ・思考を整理した構造的な板書
			<p>□まとめ、ふり返りの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用語を用いたまとめ ・よいと思った友達の考え方や学習前とどのように変わったかなどを書かせる ・自己決定した学習方法や交流の方法がめたてを達成できたかをふり返る

みかわ授業スタイル（道徳）

学習過程	時間	教師のかかわり(手立て)	めざす子供の姿
構え	授業の準備 チャイムスタート	0 □ ゴールやねらいの明確化 □ 導入の工夫	挨拶, 姿勢, 気もちよく ・具体的なゴールの姿を想定する ・ねらいを明確にする
みとおじをもつ	問題意識をもつ	5 □ 多様な考えを引き出す工夫	・「わかる!」「なんで?」等感想・疑問 ・「もっと考えたい」 ・「今日は、○○について考えるんだな」 ・「これまでをふり返ってみると」
つたえって考え、自分を見つめよう	教材を読んで話し合う 自分を見つめる	25 □ 発問の工夫 □ 子供主体の学習方法や交流の工夫 □ まとめ、ふり返りの充実	・「そう考えたわけは」 ・「もし、自分が○○だったら」 ・「この意見はどんな考え方かな」 ・「なるほど」 ・「誰と誰が同じ考えかな」「違う考えは誰かな」 ・「学習する前は…、学習した後は、…」 ・「今日の学習で学んだことは」 ・「○○さんの意見を聞いて思ったことは」 ・「これからは大切にしたいのは…」
つなげよう	思いをあたためる	10 5 □ 教師の説話 □ 絵本や詩の読み聞かせ □ 画像、動画の視聴	

6. 研究構想図

